

市政フラッシュ

まちづくりフォーラムを開催

市は11月12日から18日にかけて、市内5会場で「平成22年度まちづくりフォーラム」を開催しました。

これは、広聴事業の一環として、市民の皆さんと市長ほか市の幹部職員が意見交換を行い、お互いに情報を共有しながら共生のまちづくりを進めることを目的に行われたもの。

今回のテーマは「基金運用における仕組債の購入・保有に係る今後の対応について」。多次市長は「フォーラムで頂いたご意見

見や、議会、弁護士など有識者とともに協議しながら早期解決にむけ最大限の努力をする」と説明しました。



5会場で合計約800人が参加

鉱石の道を活かすために

11月21日、鉱石の道推進協議会による、鉱石の道「産業遺産サミット」が生野メインホールで開催されました。

当日は、基調講演や明延と生野の両地域の活動報告のほか、関係者によるパネルディスカッションが行われました。「住んでいるまちに誇りを持って、世界遺産の登録に向けて力を注ぎたい」「世界に誇る価値のある生野、神子畑、明延の3地域をルートとして繋いでいくことが大切」と鉱石の道を活かしたまちづくりについて、活発な意見が交わされました。



パネルディスカッションの様子

我がまち朝来 再発見

第38回

多様なムラの形
朝来市の弥生時代②

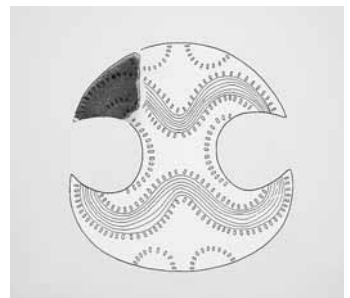
◆交流するムラ

農耕が伝わり、定住が促進されたことにより、人々の生活水準が飛躍的に向上した時代でもあった弥生時代は、その後、各地域のムラと交流を繰り返していき、多様な生活文化を形成していきます。その証拠となる考古資料が市内の遺跡からも出土しています。大盛山遺跡(和田山町弥生が丘)からは河内で製作された土器が出土しました。また仲田遺跡(山東町楽音寺)からは中部瀬戸内をその分布の中心に置く分銅形土製品というマツリに使用されたと思われる土器が出土しています。こう

◆玉を作るムラ

玉を作る技術は、朝鮮半島から北部九州に伝わった後、まもなく近畿地方にも伝わりました。但馬においても地元に産する碧玉を利用して玉生産が行われました。市内では、宮ノ本遺跡(和田山町東谷)から碧玉製や凝灰岩製の管玉未製品が出土したことや、関連する遺物として凝灰岩の剥片及び石核、玉の形を整えるための砥石などが住居跡の中や、その周辺から集中して出土したことから、玉の製作を行っていたことが明らかになりました。宮ノ本遺跡から出土した玉製作の原料となった碧玉や凝

いった他地域からの搬入品から、人の移動や文化の交流などを想定することができます。



分銅形土製品